

東洋史

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
東洋史概論	中国史概説Ⅰ	2	大野 晃嗣	3	火曜2限
東洋史概論	中国史概説Ⅱ	2	大野 晃嗣	4	火曜2限
東洋史基礎講読	『廿二史劄記』講読(1)	2	大野 晃嗣	3	火曜5限
東洋史基礎講読	『廿二史劄記』講読(2)	2	大野 晃嗣	4	火曜5限
東洋史各論	秦史の諸問題	2	渡邊 英幸	5	金曜2限
東洋史各論	魏晉南朝貴族制の諸問題	2	川合 安	5	金曜4限
東洋史各論	古代中国王朝の華夷思想 と「蛮夷」支配	2	渡邊 英幸	6	金曜2限
東洋史各論	北朝隋唐貴族制の諸問題	2	川合 安	6	金曜4限
東洋史演習	春秋戦国秦漢史料研究Ⅰ	2	渡邊 英幸	5	月曜5限
東洋史演習	明清史料研究Ⅰ 	2	大野 晃嗣	5	水曜5限
東洋史演習	春秋戦国秦漢史料研究Ⅱ	2	渡邊 英幸	6	月曜5限
東洋史演習	明清史料研究Ⅱ 	2	大野 晃嗣	6	水曜5限

科目名：東洋史概論

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB32201, **科目ナンバリング：**LHM-HIS203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：中国史概説 I

2・授業の目的と概要：中国史に関するいくつかのトピックを取り上げ、時代背景を確認しながら解説を加える。

具体的には

- ・ 科挙とは何か
- ・ 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響
- ・ 科挙制度の概要（童子試、郷試、会試、殿試）
- ・ 科挙と魯迅の作品について

以上の内容について、それぞれ 2，3 回ずつ話す予定である。なお 1 回目はガイダンスである。

3. 学習の到達目標：中国史における重要なトピックについて知識を深めると同時に、それらの内容について自分の意見を持ち、簡潔にまとめて述べることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業はリアルタイムのオンラインで行う。

1. ガイダンス
2. 科挙とは何か（1）
3. 科挙とは何か（2）
4. 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響（1）
5. 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響（2）
6. 科挙制度の概要—童子試（1）
7. 科挙制度の概要—童子試（2）
8. 科挙制度の概要—郷試（1）
9. 科挙制度の概要—郷試（2）
10. 科挙制度の概要—会試、殿試（1）
11. 科挙制度の概要—会試、殿試（2）
12. 科挙と魯迅の作品について（1）
13. 科挙と魯迅の作品について（2）
14. 科挙と魯迅の作品について（3）
15. 科挙制度の意義とまとめ

5. 成績評価方法：出席点（30％）とレポート（70％）。

6. 教科書および参考書：必要な資料は PDF で配布する。また参考文献は授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：原典（漢文）を使用しながら授業を進めるので、予習と復習が必要となる。また指示した書籍の読了を求めることがある。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋史概論

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB42201, 科目ナンバリング：LHM-HIS203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：中国史概説Ⅱ

2・授業の目的と概要：中国史に関するいくつかのトピックを取り上げ、時代背景を確認しながら解説を加える。

具体的には

- ・中国史と歴史書
- ・正史と紀伝体
- ・『史記』と司馬遷
- ・正史から小説へ

以上の内容について、それぞれ2，3回ずつ話す予定である。なお1回目はガイダンスである。

3. 学習の到達目標：中国史における重要なトピックについて知識を深めると同時に、それらの内容について自分の意見を持ち、簡潔にまとめて述べることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業はリアルタイムのオンラインで行う。

5. 成績評価方法：出席点（30％）とレポート（70％）

6. 教科書および参考書：必要な資料はPDFで配布する。また参考文献は授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：原典（漢文）を使用しながら授業を進めるので、予習と復習が必要となる。また指示した書籍の読了を求めることがある。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：東洋史基礎講読

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB32505, **科目ナンバリング：**LHM-HIS209J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：『廿二史劄記』講読（1）

2・授業の目的と概要：中国史研究（特に前近代）には、中国古典文（漢文）で書かれた史料（歴史資料）の読解が必須である。そのための基礎訓練として、清趙翼『廿二史劄記』明史の部分を読む。受講者は、このテキストを読解し、訓読と現代日本語訳を作成する作業を体験する。

3. 学習の到達目標：中国古典文（漢文）で書かれた史料を、辞書を使いこなして読解できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は対面で行う。まず最初の1～2回目に『廿二史劄記』を読むために必要な事項を説明する。そして、3回目以降は、演習形式で行い、テキストを少しずつ区切って読み進める。

- 1、ガイダンス：授業の進め方について
- 2、『廿二史劄記』について/漢文の語法について
- 3、『廿二史劄記』明史講読（1）
- 4、『廿二史劄記』明史講読（2）
- 5、『廿二史劄記』明史講読（3）
- 6、『廿二史劄記』明史講読（4）
- 7、『廿二史劄記』明史講読（5）
- 8、『廿二史劄記』明史講読（6）
- 9、『廿二史劄記』明史講読（7）
- 10、『廿二史劄記』明史講読（8）
- 11、『廿二史劄記』明史講読（9）
- 12、『廿二史劄記』明史講読（10）
- 13、『廿二史劄記』明史講読（11）
- 14、『廿二史劄記』明史講読（12）
- 15、授業の総括

5. 成績評価方法：2回目の授業以降、毎回課す課題によって評価する。

6. 教科書および参考書：配布した資料を用いて授業を進める。

7. 授業時間外学習：訓読・日本語訳の作成を毎回行って授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：東洋史基礎講読

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB42503, **科目ナンバリング：**LHM-HIS209J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：『廿二史劄記』講読（2）

2・授業の目的と概要：『廿二史劄記』の読解を継続し、中国古典文（漢文）で書かれた史料を読解するためには、漢和辞典のみに依存した予習では限界があることを体得する。2回目の授業以降、受講者は、全員、書き下し文と現代日本語訳を作成し、あわせて、関連史料や官職、制度等の調査結果についてもまとめて報告する。

3. 学習の到達目標：中国古典文（漢文）で書かれた史料を、辞書を使いこなして読解できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は対面で行う。まず最初の1～2回目に『廿二史劄記』を読むために必要な事項を説明する。そして、3回目以降は、演習形式で行い、テキストを少しずつ区切って読み進める。

- 1、ガイダンス：授業の進め方について
- 2、明代の官職、制度等の調べ方について
- 3、『廿二史劄記』『明史』講読（1）
- 4、『廿二史劄記』『明史』講読（2）
- 5、『廿二史劄記』『明史』講読（3）
- 6、『廿二史劄記』『明史』講読（4）
- 7、『廿二史劄記』『明史』講読（5）
- 8、『廿二史劄記』『明史』講読（6）
- 9、『廿二史劄記』『明史』講読（7）
- 10、『廿二史劄記』『明史』講読（8）
- 11、『廿二史劄記』『明史』講読（9）
- 12、『廿二史劄記』『明史』講読（10）
- 13、『廿二史劄記』『明史』講読（11）
- 14、『廿二史劄記』『明史』講読（12）
- 15、授業の総括

5. 成績評価方法：2回目の授業以降、毎回課す課題によって評価する。

6. 教科書および参考書：配布した資料を用いて授業を進める。

7. 授業時間外学習：訓読・日本語訳の作成を毎回行って授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋史各論

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：渡邊 英幸

コード：LB55202, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：秦史の諸問題

2・授業の目的と概要：秦始皇帝による中国統一は、東アジア史においてきわめて重要な位置を占める。だが統一時代は、実のところ秦の長期にわたる歴史のごく一部に過ぎず、またその実態も、歴史資料の不足により、これまで不明な点が多かった。ところが近年、新出土資料が増加したことにより、研究の進展が著しく、多くの事実が明らかにされつつある。この授業では、おもに領域拡大と統一、そして滅亡にいたる秦の歴史を通覧し、いくつかの重要な論点を取り上げ、研究の到達点をあきらかにすることを目的とする。

3. 学習の到達目標：受講生は講義で示した基礎的な知識を身につけるとともに、論争点を把握し、自身の理解や解釈を提示できるようにすることを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：(導入) 秦国君の系譜／秦の歴史の画期／取り扱う史料

第2回：秦の起源と建国

第3回：春秋時代の東方新出とその挫折

第4回：秦孝公の登場と商君変法

第5回：商君変法の虚実

第6回：恵文王から昭襄王へ

第7回：昭襄王の台頭と長平の戦い

第8回：ロウアイの乱前後

第9回：睡虎地秦簡とその時代

第10回：「皇帝」の出現

第11回：里耶秦簡と秦の郡県制

第12回：岳麓秦簡『為獄等状四種』にみる秦の社会

第13回：統一と「新地」の支配 (1)

第14回：統一と「新地」の支配 (2)

第15回：秦の滅亡

5. 成績評価方法：コメントシートと平常点 (10%) および最終レポート (90%) を総合して評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しない。資料を毎回配布する。

7. 授業時間外学習：配布した資料を熟読し、紹介した参考文献を積極的に参照すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：東洋史各論

曜日・講時：金曜 4 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：川合 安

コード：LB55402, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：魏晋南朝貴族制の諸問題

2・授業の目的と概要：魏晋南朝時代（220～589）は、貴族が政治・社会を主導する体制（貴族制）の時代として知られる。講義では、この時代の貴族あるいは貴族制について分析し、その具体相を浮かび上がらせるを試みる。この試みを通じて中国史における魏晋南朝時代の特質について理解を深めることを目的とする。

3. 学習の到達目標：魏晋南朝貴族制の具体相とその特質を理解し、興味をもった論点について論じることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、後漢時代の貴族
- 3、九品中正制の創設
- 4、州大中正の設置
- 5、西晋の貴族制
- 6、東晋貴族制の成立
- 7、東晋中期の貴族制
- 8、東晋貴族制の動揺
- 9、宋・齊時代の貴族制
- 10、宋・齊時代の名門貴族
- 11、宋・齊時代の新興貴族
- 12、梁・武帝の改革（十八班制）
- 13、梁・武帝の改革（試經制）
- 14、陳代の新傾向
- 15、総括

5. 成績評価方法：毎回の課題による。

6. 教科書および参考書：教科書は毎回資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。

7. 授業時間外学習：毎回の課題を作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：東洋史各論

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：渡邊 英幸

コード：LB65202, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：古代中国王朝の華夷思想と「蛮夷」支配

2・授業の目的と概要：古代の中国王朝は、周代以来、自身を〈中華〉、周辺の人びとを〈夷狄〉とする華夷観念を有してきた。また前近代の中国王朝は、秦・漢の統一以降、非漢族の人びとや周辺の国々にも統治を及ぼし、秩序を形成してきた。こうした思想と秩序は、前近代東アジアの歴史を理解するうえで、きわめて重要である。この授業では、前半では前近代の華夷思想に関する研究史を整理する。後半では、特に秦および漢王朝の行政文書や法制資料にみえる「蛮夷」関係の記事を分析し、その区別や統治のあり方を具体的に考察する。

3. 学習の到達目標：・前近代の華夷思想に関する基礎的な知識を身につけ、説明できるようになる。

・戦国から秦漢時代の中国王朝が周辺諸国・諸民族との間で形成した関係について、歴史資料に即した形で理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：(序論) 華夷思想の四つの論理
- 第2回：華夷観念の研究史 (1) 20 世紀前半
- 第3回：華夷思想の研究史 (2) 戦後
- 第4回：華夷思想の研究史 (3) 1990 年代以降
- 第5回：華夷観念の起源：西周時代
- 第6回：華夷思想の形成：『春秋左氏伝』
- 第7回：華夷思想の形成：『春秋公羊伝』
- 第8回：戦国時代の〈中華〉観念と天下観念
- 第9回：睡虎地秦簡の「夏」と「臣邦」(1)
- 第10回：睡虎地秦簡の「夏」と「臣邦」(2)
- 第11回：「蛮夷」支配の系譜 (1) 西周時代の金文資料
- 第12回：「蛮夷」支配の系譜 (2) 伝世の文献資料
- 第13回：「蛮夷」支配の系譜 (3) 秦漢時代の律令資料
- 第14回：「蛮夷」支配の系譜 (4) 秦漢時代の裁判資料
- 第15回：講義のまとめ

5. 成績評価方法：コメントシートと平常点 (10%) および最終レポート (90%) を総合して評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しない。資料を毎回配布する。

7. 授業時間外学習：配布した資料を熟読し、紹介した参考文献を積極的に参照すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：東洋史各論

曜日・講時：金曜 4 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：川合 安

コード：LB65402, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：北朝隋唐貴族制の諸問題

2・授業の目的と概要：北朝隋唐時代（439～907）における貴族制は、魏晉南朝の貴族制と異なり、国家権力主導の下に貴族の格付けが行われ、官僚制に組み込まれる傾向がある。講義では、この時代の貴族制あるいは貴族について分析し、その具体相を浮かび上がらせることを試みる。この試みを通じて、中国史における北朝隋唐時代の特質について理解を深めることを目的とする。

3. 学習の到達目標：北朝隋唐の貴族制の具体相とその特質を理解し、興味をもった論点について論じることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、五胡十六国時代の貴族
- 3、北魏前期の貴族
- 4、北魏・孝文帝の貴族制導入（官制改革）
- 5、北魏・孝文帝の貴族制導入（姓族分定）
- 6、北魏の九品中正制
- 7、北魏後期の貴族制への反発
- 8、東魏・北斉の九品中正制
- 9、西魏・北周の新貴族制
- 10、隋の官制改革
- 11、隋の貴族
- 12、唐の氏族志編纂
- 13、唐の貴族と科挙
- 14、牛・李の党争
- 15、総括

5. 成績評価方法：毎回の課題による。

6. 教科書および参考書：教科書は毎回資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。

7. 授業時間外学習：毎回の課題を作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋史演習

曜日・講時：月曜 5 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：渡邊 英幸

コード：LB51505, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：春秋戦国秦漢史料研究 I

2・授業の目的と概要：漢文史料の読解力（訓読・現代語訳）を向上させ、春秋・戦国・秦漢時代の基礎的な知識を獲得し、伝世文献の扱いを習得することを目的とする。前期は『資治通鑑』秦紀を資料とし、本文および注記を精読しながら、関連する史書や諸子百家文献、そして出土文字資料を比較検討し、編年や地理考証を行い、訳注を作成する。

3. 学習の到達目標：中国古代・中世史の漢文史料を扱うための基本的な能力を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス。『資治通鑑』と原典資料／工具書／訳注の方針

第2回：訳注の実例と解説

第3回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十五年（1）

第4回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十五年（2）

第5回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十五年（3）

第6回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十六年（1）

第7回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十六年（2）

第8回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十六年（3）

第9回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十六年（4）

第10回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十六年（5）

第11回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十六年（6）

第12回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十七年（1）

第13回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十七年（2）

第14回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十八年（1）

第15回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十八年（2）

5. 成績評価方法：報告および議論への参加状況と提出課題を総合して評価する。

6. 教科書および参考書：教科書：講読する箇所のコピーを配布する。

参考書：授業中に紹介・配布する。

7. 授業時間外学習：担当者は十分に予習して訳注稿を作成する。討論では全員に発言を求めるので、担当者以外も予習のうえで出席すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：東洋史演習

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB53503, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：明清史料研究 I

2・授業の目的と概要：中国明清時代の漢文史料読解を通じて、読むための手続き（史料の探し方や辞書・索引の使い方等）を習得する。その上で様々な課題探究に対する基礎知識を得る。

3. 学習の到達目標：明清時代の漢文史料を読解するための基本的な能力を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容読解に当たっては、同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方ー

2. 明清史料研究 Iー（1）

3. 明清史料研究 Iー（2）

4. 明清史料研究 Iー（3）

5. 明清史料研究 Iー（4）

6. 明清史料研究 Iー（5）

7. 明清史料研究 Iー（6）

8. 明清史料研究 Iー（7）

9. 明清史料研究 Iー（8）

10. 明清史料研究 Iー（9）

11. 明清史料研究 Iー（10）

12. 明清史料研究 Iー（11）

13. 明清史料研究 Iー（12）

14. 明清史料研究 Iー（13）

15. 明清史料研究 Iー（14）

5. 成績評価方法：毎回の発表内容。

6. 教科書および参考書：プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

7. 授業時間外学習：毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。

科目名：東洋史演習

曜日・講時：月曜 5 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：渡邊 英幸

コード：LB61502, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：春秋戦国秦漢史料研究Ⅱ

2・授業の目的と概要：漢文史料の読解力（訓読・現代語訳）を向上させ、春秋・戦国・秦漢時代の基礎的な知識を獲得し、伝世文献の扱いを習得することを目的とする。後期も『資治通鑑』秦紀を資料とし、本文および注記を精読しながら、関連する史書や諸子百家文献、そして出土文字資料を比較検討し、編年や地理考証を行い、訳注を作成する。

3. 学習の到達目標：中国古代・中世史の漢文史料を扱うための基本的な能力を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス。前期のまとめ

第2回：訳注の実例と解説

第3回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十八年（3）

第4回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十八年（4）

第5回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十八年（5）

第6回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十八年（6）

第7回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇二十九年・三十一年

第8回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇三十二年

第9回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇三十三年（1）

第10回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇三十三年（2）

第11回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇三十四年

第12回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇三十五年（1）

第13回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇三十五年（2）

第14回：『資治通鑑』巻七・秦紀二・始皇三十五年（3）

第15回：講義のまとめ

5. 成績評価方法：報告および議論への参加状況と提出課題を総合して評価する。

6. 教科書および参考書：教科書：講読する箇所のコピーを配布する。

参考書：授業中に紹介・配布する。

7. 授業時間外学習：担当者は十分に予習して訳注稿を作成する。討論では全員に発言を求めるので、担当者以外も予習のうえで出席すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：東洋史演習

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB63503, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：明清史料研究Ⅱ

2・授業の目的と概要：卒業論文を作成していく上で基本となる漢文史料読解力を向上させると同時に、扱える中国近世史料の知識を増やし、明清時代史の研究方法を理解する。

3. 学習の到達目標：明清時代の漢文史料を読解するための基本的な能力を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容読解に当たっては、同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方ー

2. 明清史料研究Ⅱー（1）

3. 明清史料研究Ⅱー（2）

4. 明清史料研究Ⅱー（3）

5. 明清史料研究Ⅱー（4）

6. 明清史料研究Ⅱー（5）

7. 明清史料研究Ⅱー（6）

8. 明清史料研究Ⅱー（7）

9. 明清史料研究Ⅱー（8）

10. 明清史料研究Ⅱー（9）

11. 明清史料研究Ⅱー（10）

12. 明清史料研究Ⅱー（11）

13. 明清史料研究Ⅱー（12）

14. 明清史料研究Ⅱー（13）

15. 明清史料研究Ⅱー（14）

5. 成績評価方法：毎回の発表内容。

6. 教科書および参考書：プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

7. 授業時間外学習：毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。